

「京都文教大学海外出張助成金」交付による海外出張報告書

2010年6月14日提出

申請年度	2010年度（平成22年度）		
所属学科	文化人類学科	報告者・職氏名	教授 杉本星子
海外出張内容 (種別に)	目的 Association of American Geographers 2010 Annual Meeting, Washington, DC.での研究発表 訪問国・地域 アメリカ・ワシントン 助成額 200,000円		・ <u>学会</u> (発表有)無) ・調査 ・会議 ・セミナー
期間	2010年4月15日(木)～2010年4月19日(月)		3泊5日
上記出張期間 の研究・調査等 活動経過	4月15日・・・大阪関空発 サンフランシスコ経由 ワシントン DC 着		
	4月16日・・・学会発表事前打ち合わせ		
	4月17日・・・学会発表		
	4月18日・・・ワシントン DC 発 サンフランシスコ着・発		
	4月19日・・・関空着		
研究・調査 発表等概要	参加セッション：International Interdisciplinary Collaborative Research on The Indian Ocean Tsunami		
	発表タイトル：Toward the Extrication from Heartache： A Case Study of the Reconstruction of “Village Temples” by Tsunami Victims in north Chennai, Tamilnado, India		
	概要：2004年インド洋大津波直後から実施してきた南インド・タミルナードゥ州 チェンナイ市北部の津波被災地の復興状況に関する長期的な調査に基づいた 事例報告。		
	本発表では、復興住宅地区における新たな住民ネットワークが、「村」の女神 寺院の建立をとおして形成されつつあること、そこにおいて、被災後に NGO 諸団体によるエンパワーメント事業に参加した女性たちが、積極的な役割を 果たしていること、「村」の寺院建立におけるヒンドゥー教、キリスト教徒、 イスラーム教徒の協働について報告した。		
	2004年インド洋大津波後、被災地の調査を続けてきたインド・アメリカ・オース トラリア・日本の地理学者と人類学者が行ってきた共同研究の成果をまとめて発表で きた。セクション全体の報告により、インド南部沿岸一帯の被災地状況とその後の復 興状況が明らかになる成果があった。		
	とくに、自然災害の被災状況および復興状況における現地の社会・文化的な要因の 重要性が明らかになったこと、とくにインドにおいて、宗教団体の活動や宗教組織の 寄与、漁民カーストのネットワークが大きな役割をもつことを例証したことが評価 された。		
	共同研究の出版について、具体的な議論ができた成果があった。		
	研究・調査 等の成果 発表予定		
	雑誌論文：成果出版に向け、現在編者Dr. Karan(シカゴ大学)を中心に編集作業が進行 中。		